

科目名：基礎医学 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス 学科 (医療事務)

単位数：2 単位

担当者名：矢崎美裕子

授業形態：講義

教材：読んでわかる解剖生理学、三訂医療用語、三訂医療秘書、医療秘書検定 3 級過去問題
教員の実務経験：一般職（システム運用）5 年間勤務。

医療機関において 6 年間勤務（うち 2 年間はドクターズクларク兼院長秘書）

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：人体の身体の構造や働きを解剖生理学的見地から解説し、関連する医療用語も教授する。医療機関勤務経験を活かし、受付スタッフとしての接遇マナー、カルテを読むために必要な医学の基礎知識を教授する。

到達目標：

- (1) スタッフ部門職員が心得るべき医学知識の取得。
- (2) カルテが読めて理解できる。
- (3) 各種の医療情報が理解できる。
- (4) 生命の尊さを知り人間形成の一助とする。
- (5) 医学に関して興味を持ち、自ら調べる力をつける。

評価方法／基準：

定期テスト 30% レポート 20% 授業貢献度（出席、意欲・小テスト）50%

その他、注意事項：連絡なしの欠席については、平常点から減点する。
病気等やむを得ない欠席だった場合は、欠席した分の課題を渡す。
課題の提出がない場合は、定期試験実施時に追加する。

関連する主な検定試験：医療秘書技能検定 3 級（11 月）

キーワード：解剖生理学、医療秘書概論、医療英語、医療漢字

<授業計画>

第1週	解剖生理学総論 医学用語1・医療秘書概論（医療秘書の資質と役割）
第2週	細胞と組織 医学用語2・医療秘書概論（医療提供の理念・日本の医療の歴史①）
第3週	骨格系（骨と筋肉） 医学用語3・医療秘書概論（日本の医療の歴史②）
第4週	循環器系1（脈管系と血液） 医学用語4・医療秘書概論（医療提供施設・病院の専門職）
第5週	循環器系2（心臓と血液） 医学用語5・医療秘書概論（病院組織①）
第6週	呼吸器系（解剖、生理 疾病） 医学用語6・医療秘書概論（病院組織②）
第7週	栄養学と消化器1（上部消化管） 医学用語7・医療秘書概論（各国の医療費の支払い①）
第8週	消化器2（下部消化管） 医学用語8・医療秘書概論（各国の医療費の支払い①）
第9週	消化器3（膵・胆管） 医学用語9・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式①）
第10週	泌尿器（解剖と生理） 医学用語10・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式②）
第11週	神経系1（中枢神経） 医学用語11・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式③）
第12週	神経系2（末梢神経）/感覚器 医学用語12・医療秘書概論（現代医療）
第13週	内分泌系1（解剖生理/ホルモンの働き） 医学用語13・医療秘書概論（地域包括医療）
第14週	検定試験対策
第15週	総括

科目名：医療法規Ⅰ

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科 (医療事務)

単位数：2 単位

担当教員名：矢崎美裕子

授業形態：講義

教材：最新 医療関連法の完全知識 2023 年版、最新・医療事務入門 2023 年版

教員の実務経験：

一般職（システム運用）5 年間勤務。医療機関において 6 年間勤務（うち 2 年間はドクターズ
クラーク兼院長秘書）

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：この講義は医療秘書検定 3 級「領域Ⅰ」、診療報酬請求事務能力認定試験に対応している。医療機関勤務経験を生かし多職種協働の医療現場の実際と協働作業の一員として活動するための医療法規の概要、窓口応対に必要な知識を指導する。

到達目標：

- (1) 医療秘書検定 3 級合格に必要な知識の習得
- (2) 健康保険法について説明できる。
- (3) 医療法について説明できる。
- (4) 診療報酬の請求方法について説明できる。
- (5) その他各種法規について理解できる。

評価方法／基準：

定期テスト 30% レポート 20% 授業貢献度（出席、意欲・小テスト）50%

その他、注意事項：

連絡なしの欠席については、平常点から減点する。

病気等やむを得ない欠席だった場合は、欠席した分の課題を渡す。

課題の提出がない場合は、定期試験実施時に追加する。

関連する主な検定試験：医療秘書検定 3 級、診療報酬請求事務能力認定試験

キーワード：医療法、健康保険法、診療報酬請求、窓口応対

< 授業計画 >

第1週	医療事務とは 医事課と医療事務
第2週	接遇の基本 医療事務員の患者接遇
第3週	外来業務 (新患受付/再来受付)
第4週	入退院業務 (入院手続き/退院手続き/病床管理)
第5週	保険請求業務 (診療報酬とは/診療報酬点数表の基礎知識)
第6週	法規とは/法規の種類 医療法① (医療提供理念) (医療機関の種類と組織)
第7週	医療法② (医療機関の種類と組織)
第8週	医療保険に関する法規 1 (医療保険制度)
第9週	医療保険に関する法規 2 (医療保険の種類)
第10週	医療保険に関する法規 3 (高額療養費制度、保険外併用療養)
第11週	保険診療に関する法規 (療養担当規則)
第12週	院内感染予防と感染症法
第13週	個人情報保護法
第14週	定期試験対策
第15週	総括

科目名：テクノロジー概論

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科 (医療事務)

単位数：2

担当教員名：八巻 祐治

授業形態：講義

教材：令和 05 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 (情報処理技術者試験)

教員の実務経験：社内システムサポート・Web サイト構築・CBT 実施/サポート 10 年

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

資格試験 (IT パスポート試験) の内容に沿って、社内 (院内) システムの運用やサポート業務に就く上で必要となる基本的な ICT 技術を理解する。また、IT パスポート試験に出題された問題の解説もしながら、現場で遭遇する様々なトラブルや解決方法の実例を交えて講義する。

到達目標：

- (1) コンピュータシステムの概念が理解できる
- (2) トラブルシューティングする際に必要な基礎知識を習得する。
- (3) IT パスポート試験のテクノロジー分野が理解できる。

評価方法/基準：

期末テスト及び出席状況と授業態度により総合評価する。

総合評価 80 点以上・・・A 評価

総合評価 70 点以上・・・B 評価

総合評価 50 点以上・・・C 評価

以上以外はすべて D 評価とする。

その他、注意事項：

IT パスポート試験の受験に関しては、前期の当該授業ではテクノロジー分野のみの講義であり、後期に予定している「ストラテジ概論」受講後を推奨する。

関連する主な検定試験：

IT パスポート試験

キーワード：

IT パスポート試験、ICT テクノロジー

< 授業計画 >

第1週	ハードウェア1
第2週	ハードウェア2
第3週	ソフトウェア1
第4週	ソフトウェア2
第5週	システム構成1
第6週	システム構成2
第7週	ネットワーク1
第8週	ネットワーク2
第9週	ネットワーク3
第10週	セキュリティ1
第11週	セキュリティ2
第12週	データベース1
第13週	データベース2
第14週	アルゴリズムとプログラミング
第15週	まとめ

科目名：ネットワーク基礎演習 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科 (IT コース)

単位数：2

担当教員名：片寄隆典

授業形態：座学と演習

教材：シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集

教員の実務経験：Web サイト/Web ベースシステムの開発に 20 年従事

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

小中規模のネットワークにおけるスイッチおよびルータの基本設定を、実機やネットワークシミュレータを用いた演習を行いつつ学ぶ。

到達目標：

- (1) ネットワークに関する基礎知識を身につける
- (2) IOS の基本的な操作方法を身につける

評価方法／基準：

講義中に適宜出題される演習課題および期末試験の結果によって評価する。

達成度 80%以上を A、70%以上を B、50%以上を C とする。60%未満は評価 D とする。

その他，注意事項：

単に講義を聞いてさえいれば知識や技術が身につくというものではない。各自で復習・演習を怠らないこと。

< 授業計画 >

第1週	概要と前提知識の確認
第2週	ネットワーク基礎
第3週	ネットワーク基礎 (演習)
第4週	イーサネット
第5週	イーサネット (演習)
第6週	TCP/IP
第7週	TCP/IP (演習)
第8週	IPv4アドレスとサブネット
第9週	IPv4アドレスとサブネット (演習)
第10週	Cisco IOSソフトウェアの操作
第11週	Cisco IOSソフトウェアの操作 (演習)
第12週	Cisco IOSソフトウェアの操作 (実践演習)
第13週	総合演習
第14週	総合演習
第15週	まとめ

科目名：プログラム演習 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス 学科 (IT コース)

単位数：2

担当教員名：勝場 恵一

授業形態：講義と演習

教材：新・標準プログラマーズライブラリ なるほどなっとく C#入門
Visual Studio 2022

教員の実務経験：

システムエンジニアとして C++、C# を使用しソフト開発、保守など 3 年
新入社員教育として、C++、JAVA を教育 3 年

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

C# の文法及び構造化プログラミングを学ぶ授業。C# はアプリケーション開発及び学習の容易さが特徴としてある言語である。C# では GUI アプリや Web アプリ、ゲーム制作等多岐にわたる開発が可能のため、習得後さまざまな用途で使用が可能である。

この授業では、どの言語でも実装されているような基本的な機能の習得を目的とする。

到達目標：

- (1) プログラムがどのように動作するか理解する。
- (2) C# による構造化プログラミングを理解する。
- (3) アルゴリズムを応用し、目的のプログラムを実装できる。

評価方法／基準：

期末テスト及び出席状況と授業態度により総合的に評価する。総合評価が 100～80 点は A、79～70 点は B、69～60 点は C、60 点未満は D とする。

その他、注意事項：IT パスポート試験、基本情報技術者試験、その他 IT 試験

関連する主な検定試験：

キーワード：

C#、オブジェクト指向、プログラミング、クラスライブラリ

<授業計画>

第1週	開発環境の構築 C#とは
第2週	講義 演算と変数
第3週	演習 演算と変数
第4週	講義 条件分岐
第5週	演習 条件分岐
第6週	講義 繰り返し処理
第7週	演習 繰り返し処理1
第8週	演習 繰り返し処理2
第9週	講義 配列変数
第10週	演習 配列変数1
第11週	演習 配列変数2
第12週	講義 フォームアプリケーションの制作方法
第13週	演習 フォームアプリケーションの制作方法
第14週	まとめ
第15週	総復習

2023 年度 前期 授業シラバス

医療ビジネス観光福祉専門学校

科目名：ソフトウェア演習（MOS） 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科（医療事務/IT）

単位数：2

担当教員名：橋本 規子

授業形態：講義と演習

教材：MOS攻略問題集 Word 365&2019

MOS攻略問題集 PowerPoint 365&2019

教員の実務経験：ソフトウェア開発の PG として 10 年間勤務

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

Word 2019 の利用能力を証明する MOS 試験の出題範囲の機能、操作と実務での活用方法を学修し、資格試験に合格できるようにする。

PowerPoint 2019 の利用能力を証明する MOS 試験の出題範囲の機能、操作と実務での活用方法を学修する。

到達目標：

- (1) MOS 試験 Word 2019 合格
- (2) MOS 試験 PowerPoint 2019 合格レベル

評価方法／基準：MOS 試験、模擬テストの結果、学習態度の評価の総合評価

- A：総合評価が 80 点以上
- B：総合評価が 70 点以上
- C：総合評価が 60 点以上
- D：上記以外

その他、注意事項：授業を欠席した場合は補完用の課題を課す場合がある。

関連する主な検定試験：MOS 試験（Word 2019、PowerPoint 2019）

キーワード：ビジネス文書、プレゼンテーション

< 授業計画 >

第1週	Word 第1章 文書の管理
第2週	Word 第2章 文字、段落、セクションの挿入と書式設定
第3週	Word 第3章 表やリストの管理
第4週	Word 第4章 参考資料の作成と管理
第5週	Word 第5章 グラフィック要素の挿入と書式設定
第6週	Word 第6章 文書の共同作業の管理
第7週	Word 模擬テスト (1)
第8週	Word 模擬テスト (2)
第9週	Word 模擬テスト (3)
第10週	Word 試験対策、MO S 試験
第11週	PowerPoint 第1章 プレゼンテーションの管理
第12週	PowerPoint 第2章 スライドの管理
第13週	PowerPoint 第3章 テキスト、図形、画像の挿入と書式設定
第14週	PowerPoint 第4章 表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入
第15週	PowerPoint 第5章 画面切り替えやアニメーションの適用

科目名：宿泊実務

対象クラス(コース)：1 学年 観 光 学科 (ホテル・ブライダルコース)

単 位 数：1

担当教員名：川村 仁

授業形態：講義、グループワーク

教 材：オリジナルプリント

教員の実務経験：約 10 年間、ホテルにて勤務。フルサービス型ホテル、リゾートホテル、宿泊特化型ホテル、コンベンションホテルを経験。

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

宿泊部門の業務（P57～P86） 夏期インターンシップの宿泊業務（ドア・ベル）実技演習
ホテルビジネス実務検定試験の宿泊部門の対策 ホテル・ブライダル実習基礎と連携を行っていきます。

到達目標：

- (1)宿泊部門の基本を学び理解する
- (2)宿泊部門の実務を学び理解する
- (3)グループワークでチームとして共通理解をする
- (4)ホテルビジネス実務検定試験の宿泊部門を理解する

評価方法／基準：

目標の 8 割程度以上を A、7 割程度を B、6 割程度を C、それ未満は D を基本とし、授業態度、中間考査結果も加味して評価とする。

その他、注意事項：授業を欠席した場合は補完用の課題を課す場合がある。

関連する主な検定試験：ホテルビジネス実務検定試験

キーワード：ホテル、宿泊

< 授業計画 >

第1週	オリエンテーション
第2週	宿泊部門の基本①
第3週	宿泊部門の基本②
第4週	宿泊部門の実務
第5週	宿泊部門の実務
第6週	実技演習①
第7週	実技演習②
第8週	実技演習③
第9週	中間考査
第10週	実技演習④
第11週	実技演習⑤
第12週	実技演習⑥
第13週	実技演習⑦
第14週	まとめ
第15週	総復習

2023 年度 前期 授業シラバス

医療ビジネス観光福祉専門学校

科目名：レストランサービス技法 1

対象クラス(コース)：1 学年 観光学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：石田 慎

授業形態：対面座学

教材：西洋料理 料飲接客サービス技法 3 版

教員の実務経験：シティホテル勤務のべ 15 年、料飲ブライダル海外勤務のべ 3 年、ホテルレストランブライダル総合コンサルティング 20 年

厚生労働省認定 1 級レストランサービス技能士

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

料飲基礎知識、ホテルレストラン系法令基礎知識、食文化とプロトコール、サービスマンの資質・心構え

到達目標：

- (1) 西洋料理用語食材基礎知識
- (2) 酒の分類基礎知識
- (3) サービスマンの資質
- (4) 宴会サービスの基本知識
- (5) レストランサービスの基礎知識

評価方法／基準：

出席率と期末試験得点、授業態度にて評価

その他、注意事項：

関連する主な検定試験：レストランサービス技能士 3 級

キーワード：

日本ホテル・レストランサービス技能協会
レストランサービス技能士 (HRS3 級)

<授業計画>

第1週	オリエンテーション
第2週	第1章 食材・飲料等の基礎知識 1. 食品 2. 食材
第3週	第1章 食材・飲料等の基礎知識 1. 食品 2. 食材
第4週	第1章 食材・飲料等の基礎知識 3. 調理法 4. 飲料
第5週	第1章 食材・飲料等の基礎知識 5. メニュー 6. 用語備品
第6週	第1章 食材・飲料等の基礎知識 まとめ
第7週	練習問題
第8週	第3章 宴会とレストランサービス 1. 宴会 2. レストラン 3. 客席案内 4. 注文
第9週	第3章 宴会とレストランサービス 5. テーブルサービス 6. グリドンサービス 7. 予約 8. メニュー管理
第10週	第3章 宴会とレストランサービス 9. 料理食器等の異常 10. 救護方法
第11週	第3章 宴会とレストランサービス 11. 食事サービスマナー 12. 国際習慣
第12週	第3章 宴会とレストランサービス まとめ
第13週	練習問題
第14週	練習問題
第15週	総まとめ

科目名：観光英語 1

対象クラス(コース)：1 学年 観光学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：上田 裕子

授業形態：講義・演習・課題・小テスト

教材：テキスト (ホテル英会話 I 及び観光英検 3 級の精選過去問題) 及び
オリジナルプリント

教員の実務経験：文学部英米文学科卒業。ワタベウエディングにて海外及び国内担当ブライダルプランナーとし勤務。その後、BIA ブライダルマネジャー及びブライダルコーディネーター、ウエディングスペシャリスト資格取得。*Color Studio Elegance* を 2000 年より主宰。ブライダルフェアイベント及びブライダルプランナー育成に携わる。

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

テキストを通してホテル、飲食、宿泊、その他サービスに関する英単語・英語表現・接客英語・敬語表現を学習し、各場面を想定しての実際の英会話での応対に対応できるように指導する。観光英語検定 3 級合格を目指す。

到達目標：

- (1) 就職に必要なホテルでの基本的な英会話の習得
- (2) 観光英語の基礎単語の習得
- (3) 英文読解及び解釈問題のスキルアップ
- (4) 英文及び英会話の聴解を中心としたリスニング演習によるリスニング力の向上
- (5) 精選問題実践により観光英語 3 級合格

評価方法／基準：

出席状況・スピーキングテスト・期末テストの点数による総合評価。
総合評価 80 点以上・・・A 評価, 総合評価 70 点以上・・・B 評価,
総合評価 60 点以上・・・C 評価, それ未満を D 評価とする。

その他, 注意事項：観光英語検定 3 級の合格を目標とする。

関連する主な検定試験：観光英語検定 3 級

キーワード：ホテル, ドアマン, ベル・パーソン, クロークルーム・アテンダント,
フロント・デスク・スタッフ, ハウスキーパー, レストラン・スタッフ

<授業計画>

第1週	自己紹介・オリエンテーション 単語プリント No. 1
第2週	ホテル英会話 LESSON 1
第3週	ホテル英会話 LESSON 1
第4週	ホテル英会話 LESSON 2
第5週	ホテル英会話 LESSON 2 単語プリント No. 1 テスト
第6週	ホテル英会話 LESSON 3 単語プリント No. 2
第7週	ホテル英会話 LESSON 3
第8週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題筆記 試験
第9週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題筆記 試験 解答解説
第10週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題リスニング 試験
第11週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題リスニング 試験 解答解説
第12週	文法解説
第13週	総復習・前期重要事項ポイント解説
第14週	まとめ
第15週	検定試験対策 重要事項ポイント解説 単語プリント No. 2 テスト

2023 年度 前期 授業シラバス

医療ビジネス観光福祉専門学校

科目名：プロトコールマナー 1

対象クラス(コース)：1 学年 観光学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：川脇 由美子

授業形態：講義

教材：マナー&プロトコールの基礎知識

マナー&プロトコール検定 2 級・3 級問題集

教員の実務経験：美容師、ブライダルコーディネーター、美容学科教員

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：社会人として必要なマナーや国際社会で必須のプロトコールに関する知識を幅広く学習する。

到達目標：

- (1) 人間関係を円滑にするためのマナーを身に付ける。
- (2) 国際社会に適応できるプロトコールを身に付ける。
- (3) 日本の文化やしきたり、冠婚葬祭について知る。
- (4) 「マナー・プロトコール検定」の合格を目指す。

評価方法／基準：出席状況、期末試験の点数により総合評価する。

総合評価 150～130 点以上…A 評価

総合評価 129～100 点以上…B 評価

総合評価 99～80 点以上…C 評価

上記以外は D 評価とする。また出席率 80%以下は 1 ランク下げた評価とする。

その他、注意事項：課題提出日厳守、規定点数未滿補講

関連する主な検定試験：マナー・プロトコール検定

キーワード：マナー、エチケット、プロトコール、冠婚葬祭、しきたり

< 授業計画 >

第1週	序章 マナーとは何か 第1章 マナーの歴史と意味
第2週	第2章 国際人としてのプロトコール 練習問題
第3週	第3章 社会人に必要なマナー
第4週	第3章 社会人に必要なマナー
第5週	第4章 ビジネスシーンのマナー
第6週	第4章 ビジネスシーンのマナー 練習問題
第7週	第5章 食事のマナー
第8週	第5章 食事のマナー 第6章 お酒のマナー
第9週	第7章 「冠」のしきたり
第10週	第8章 「婚」のしきたり
第11週	第9章 「葬」のしきたり
第12週	第10章 「祭」のしきたり 練習問題
第13週	試験対策
第14週	模擬試験
第15週	まとめ

2023 年度 前期 授業シラバス

医療ビジネス観光福祉専門学校

科目名：パソコン演習 I

対象クラス(コース)：1 学年 観光学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：田中 直也

授業形態：講義と演習

教材：30 時間でマスターWord&Excel2019 30 時間でマスターWord 365&2019

教員の実務経験：コンピューター業務、様々なソフトを使用し 25 年間勤務

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

基本操作を学習しながら、実務で活用するための演習を行う。

Word 2019 Specialist の利用能力を証明する MOS 試験の出題範囲の操作や機能を学習する

到達目標：

- (1) MOS 試験 Word 2019 Specialist 合格
- (2) ビジネス文書を作成することができる

評価方法／基準：MOS 試験、模擬テストの結果、学習態度の評価の総合評価

A：総合評価が 80 点以上

B：総合評価が 70 点以上

C：総合評価が 60 点以上

D：上記以外

その他、注意事項：

最低限の仕様を満足しない提出物については、仕様を満足するまで再提出が要求される。

関連する主な検定試験：

MOS 試験 (Word 2019 Specialist)

キーワード：ビジネス文書

< 授業計画 >

第1週	PCのの設定 PCとスマホの違い
第2週	第1章 Windows10の基礎
第3週	第2章 Word入門①
第4週	第2章 Word入門②
第5週	第3章 文書の作成
第6週	第4章 Wordの活用 + 試験対策①
第7週	第5章 Wordの活用 2 + 試験対策②
第8週	第6章 Wordの応用 + 試験対策③
第9週	第6章 ② Wordの応用 + 試験対策④
第10週	第7章 Wordのによるプレゼンテーション
第11週	試験対策⑤
第12週	試験対策⑥
第13週	試験対策⑦
第14週	模擬テスト
第15週	MOS 試験

科目名：ウエディングスペシャリスト 1

対象クラス(コース)：1 学年 観光学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：上田裕子、川脇由美子

授業形態：講義

教材：「ウエディングスペシャリスト認定プログラム」

教員の実務経験：上田 (ウエディングプランナー、カラーリスト、テーブルコーディネーター講師)

川脇 (美容学科教員、WBW ウエディングスペシャリスト)

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：ブライダルの定義、歴史と文化、業界専門用語を理解し、日本、海外のブライダルビジネス全般の基礎知識に関する内容を学習する。

到達目標：

- (1) ホテル・ブライダル業界に進むための専門知識を習得する。
- (2) 精神的な成長の大切さを学び、自身の能力向上を目指す。
- (3) 米国認定ウエディングスペシャリストの認定資格取得を目指す。

評価方法／基準：課題、出席率により総合評価する。

総合評価 80 点以上…A 評価

総合評価 70 点以上…B 評価

総合評価 50 点以上…C 評価

上記以外は D 評価とする。

※課題ごとの評価は WB 協会の定めた A+から B とする。

課題締切日以降の提出は 1 ランク評価を下げる。

その他、注意事項：課題提出日厳守

関連する主な検定試験：

米国認定ウエディングスペシャリスト

ブライダルコーディネーター技能検定

BIA 認定 アソシエイト ブライダル コーディネーター

キーワード：

ブライダルプランナー、ブライダルコーディネーター、ASS 認定、結婚式、海外ドレスコーディネーター

< 授業計画 >

第1週	ガイダンス、メンタルパワー A-2 (川脇)
第2週	伝える技術-効果な話し方 A-4 (川脇)
第3週	本当の自分 A-3 (川脇)
第4週	ピープルマネジメントスキルの向上 A-5 (上田)
第5週	ピープルマネジメントスキルの向上 A-5 (上田)
第6週	まとめ
第7週	結婚式の慣習 B-6 (川脇)
第8週	結婚式の歴史と文化 B-7 (川脇)
第9週	挙式-1 B-8 (川脇)
第10週	挙式-2 B-9 (川脇)
第11週	まとめ
第12週	ウエディングプロデューサーとして企業する A-1 (上田)
第13週	ウエディングプロデューサーとして企業する A-1 (上田)
第14週	16章課題 (2、7) (上田)
第15週	まとめ

科目名：人間の尊厳と自立

対象クラス(コース)：1 学年 介護福祉学科

単位数：1

担当教員名：福島岳志

授業形態：講義（全 15 回）

教材：最新介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第 2 版 中央法規出版株式会社

※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：介護保険施設・在宅介護事業所などにて介護福祉職（介護福祉士）の経験を有する。

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

高齢者・児童・障がい者の介護現場において、多様で多世代にわたる人々との関わりを通し人間の多面的な理解を深めてきた経験を活かし、下記の学習目的が達成できるように授業を実施していく。

学習目的 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。

学習内容 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的、課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

到達目標：

- (1) 人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷について理解する。
- (2) 人間の尊厳や人権・権利擁護について理解する。
- (3) 自立の考え方について学び、尊厳を守る介護と自立支援の関係性について理解する。
- (4) 自らと他者との関係性について理解する。

評価方法／基準：

授業態度（出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など）、確認テスト・総まとめ試験などの結果を総合的に評価する。

総まとめ試験 70% 確認テスト 10% 平常点（出席 10%・授業態度 10%） 20%

※総まとめ試験は 60 点以上を合格とする。（国家試験合格の確実性を高める為には、80%以上の正答率が必要であり常に 80 点以上を目標に学習に取り組むこと）

その他、注意事項：

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1、事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておくこと。

2、事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深めておくこと。

課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出すること。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：人権思想の潮流、福祉理念の変遷、尊厳、人権、権利擁護、自立と自律、自立支援、主体性、関係性

<授業計画>

第1回	人間の尊厳と利用者主体 テキスト：P2～7	講義
第2回	人権思想の潮流とその具現化 テキスト：P7～11	講義
第3回	人権や尊厳に関する日本の諸制度 テキスト：P11～16	講義
第4回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1 テキスト：P16～24	講義・確認テスト
第5回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2 - 1 テキスト：P24～29	講義
第6回	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2 - 2 テキスト：P29～37	講義
第7回	人権尊重と権利擁護1 テキスト：P37～45	講義・確認テスト
第8回	人権尊重と権利擁護2 テキスト：P45～49	講義
第9回	自立の概念の多様性 テキスト：P52～5	講義・確認テスト
第10回	自立とは テキスト：P57～61	講義
第11回	介護を必要とする人々の自立と自立支援1 テキスト：P61～68	講義
第12回	介護を必要とする人々の自立と自立支援2 テキスト：P68～71	講義
第13回	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性 テキスト：P71～75	講義
第14回	まとめ（第1～13回の内容）	講義・ディスカッション・確認テスト
第15回	総まとめ（第1回～13回までの内容）	試験・解説

(注釈)

授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。

科目名：介護の基本 I

対象クラス(コース)：1 学年 介護福祉学科 (介護)

単位数：1

担当教員名：坂元英之

授業形態：講義 (全 15 回)

教材：最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第 2 版 中央法規出版株式会社
※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：病院・介護保険施設にて介護福祉職 (介護福祉士) としての経験を有する。

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

高齢者の介護現場において、直接的・間接的支援など多様な場面での援助経験を活かし、下記の学習目的が達成できるように授業を実施していく

学習目的 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

- 1 介護福祉士に求められる役割と機能について理解する。
- 2 介護福祉士を支える各種団体について理解する。

授業内容 1 介護福祉の基本となる理念を理解する内容とする。
2 介護福祉士としての役割と機能と介護福祉士関連する団体について理解する内容とする。

到達目標：

- (1) 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できるようにする。
- (2) 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時などの場面や状況における介護福祉士の役割と機能を理解できるようにする。

評価方法／基準：

授業態度 (出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など)、確認テスト・総まとめ試験などの結果を総合的に評価する。

総まとめ試験 70% 確認テスト 10% 平常点 (出席 10%・授業態度 10%) 20%

※総まとめ試験は 60 点以上を合格とする。(国家試験合格の確実性を高める為には、80%以上の正答率が必要であり常に 80 点以上を目標に学習に取り組むこと)

その他、注意事項：

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1、事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておくこと。

2、事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深めておくこと。
課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出すること。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：介護、介護の社会化、介護需要・家族機能・地域社会の変化、介護ニーズ、
介護福祉職、介護福祉の歴史、介護保険法、老人福祉法、福祉六法、介護問題、
社会福祉士及び介護福祉士法、介護福祉の基本理念

<授業計画>

第1回	介護福祉を取り巻く状況1 テキスト：P2～9	講義
第2回	介護福祉を取り巻く状況2 テキスト：P9～19	講義
第3回	介護福祉の歴史1 テキスト：P21～30	講義・確認テスト
第4回	介護福祉の歴史2 テキスト：P31～42	講義
第5回	介護福祉の歴史3 テキスト：P42～51	講義
第6回	介護福祉士の基本理念1 テキスト：P53～59	講義・確認テスト
第7回	介護福祉士の基本理念2 テキスト：P59～63	講義
第8回	社会福祉士及び介護福祉士法 テキスト：P68～75	講義・確認テスト
第9回	介護福祉士の活動の場と役割1 テキスト：P77～85	講義
第10回	介護福祉士の活動の場と役割2 テキスト：P85～92	講義
第11回	介護福祉士に求められる役割とその養成1 テキスト：P94～97	講義・確認テスト
第12回	介護福祉士に求められる役割とその養成2 テキスト：P98～106	講義
第13回	介護福祉士を支える団体 テキスト：P107～115	講義・確認テスト
第14回	まとめ（第1～13回の内容）	講義
第15回	総まとめテスト（第1回～13回までの内容）	試験・解説

(注釈)

授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。

科目名：介護過程 I

対象クラス(コース)：1 学年 介護福祉 学科 (介護)

単位数：2

担当教員名：武石稔弘

授業形態：講義・演習 (全 30 回)

教材：最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 第 2 版 中央法規出版株式会社

※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：介護保険施設・在宅介護事業所などで介護福祉職 (介護福祉士) の経験を有する。

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

介護・教育現場において多岐にわたる介護サービス提供・事例検討などを行ってきた経験を活かし、下記の学習目的が達成できるように授業を実施していく。

学習目的 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。

授業内容 介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。

到達目標：

- (1) 介護実践における介護過程の意義・目的を理解する。
- (2) 介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する。

評価方法／基準：

授業態度 (出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など)、確認テスト・総まとめ試験などの結果を総合的に評価する。

総まとめ試験 40% 確認テスト・演習 40% 平常点 (出席 10%・授業態度 10%) 20%

※総まとめ試験は 60 点以上を合格とする。(国家試験合格の確実性を高める為には、80%以上の正答率が必要であり常に 80 点以上を目標に学習に取り組むこと)

その他、注意事項：

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1、事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておくこと。

2、事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認 (復習) し、理解を深めておくこと。

課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出すること。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：客観性、主観性、情報収集・アセスメント、解釈・関連づけ・統合化、ICF、生活課題、科学的根拠、介護計画の立案・実施・評価

< 授業計画 >

第1回	介護過程とは1 テキスト：P2～9	講義
第2回	介護過程とは2 テキスト：P9～16	講義
第3回	介護過程とは3（アセスメント疑似体験） テキスト：P16～22	講義・演習
第4回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性1 テキスト：P25～32	講義・確認テスト
第5回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性2 事例検討会の演習	演習
第6回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性3 事例研究(ケーススタディ)の演習	演習
第7回	介護過程の展開 テキストP34～37	講義・確認テスト
第8回	アセスメント（情報収集）1 テキスト：P38～45	講義
第9回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）1 テキスト：P48～55	講義
第10回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）2 テキスト：P55～61	講義
第11回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）3 情報の解釈の演習①	演習
第12回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）4情報の解釈の演習②	演習
第13回	介護計画の立案1 テキスト：P65～70	講義・確認テスト
第14回	介護計画の立案2 テキスト：P71～74	講義
第15回	介護の実施 テキスト：P76～81	講義
第16回	評価 テキスト：P82～86	講義
第17回	事例演習Ⅰ - ①（情報の解釈）	演習
第18回	事例演習Ⅰ - ②（情報の解釈）	演習
第19回	事例演習Ⅰ - ③（関連づけ）	演習
第20回	事例演習Ⅰ - ④（関連づけ）	演習
第21回	事例演習Ⅰ - ⑤（統合化）	演習
第22回	事例演習Ⅰ - ⑥（統合化）	演習
第23回	事例演習Ⅱ - ①（情報の解釈）	演習
第24回	事例演習Ⅱ - ②（情報の解釈）	演習
第25回	事例演習Ⅱ - ③（関連づけ）	演習
第26回	事例演習Ⅱ - ④（関連づけ）	演習
第27回	事例演習Ⅱ - ⑤（統合化）	演習
第28回	事例演習Ⅱ - ⑥（統合化）	演習
第29回	まとめ（第1回～28回の内容）	講義
第30回	総まとめ（第1回～28回までの内容）	試験・解説

(注釈)

授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。

科目名：発達と老化の理解 I

対象クラス(コース)：1 学年 介護福祉学科 (発達と老化の理解)

単位数：1

担当教員名：竹中 ツネ

授業形態：講義

教材：最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 (中央出版株式会社)

教員の実務経験：総合病院、看護教員、訪問看護、医療安全管理に関する教育、職員教育、医療事故防止対策活動、介護職員による喀痰吸引等の指導等

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)

施設内及び在宅に於ける療養者への支援等の経験を活かして、事例等を通して下記の学習目標が達成できるように授業を展開していく。

学習目的

介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。

学習内容

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

到達目標

- (1) 人間の成長と発達の基礎的な知識を理解する。
- (2) ライフサイクル各期 (乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期) 成長・発達の原則・法則を理解する。
- (3) 身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。
- (4) 老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病を理解する。
- (5) 生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解する。

評価方法/基準

授業態度 (出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など)、確認テスト・総まとめ試験などの結果を総合的に評価する。(総まとめ試験 70% 確認テスト 10% 授業態度 20%) ※期末試験は 60 点以上を合格とする。(国家試験合格の確実性を高める為には、80%以上の 正答率が必要であり常に 80 点以上を目標に学習に取り組むこと)

その他、注意事項

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1. 事前学習：毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておくこと。
2. 事後学習：毎回の授業内容・確認テストを再確認 (復習) し、理解を深めておくこと
課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出すること。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

携<授業計画>

第1週	第1章：人間の成長と発達の基礎的知識① 第1節：成長・発達の考え方①	(キストP2-6) 講義・専門用語確認
第2週	第1章：人間の成長と発達の基礎的知識② 第1節：成長・発達の考え方②	(テキストP7-10) 講義・課題提示
第3週	第1章：人間の成長と発達の基礎的知識③ 第2節：成長・発達の原則・法則	(テキストP10-17) 講義・課題提示
第4週	第1章：人間の成長と発達の基礎的知識④ 第3節：成長・発達の要因	(テキストP10-17) 講義・GW・発表
第5週	第2章：人間の発達段階と発達課題① 第1節：発達理論（子どもの発見/さまざまな発達理論）	(テキストP20-23) 講義：確認テスト①
第6週	第2章：人間の発達段階と発達課題② 第2・3節：発達段階と発達課題・身体的機能の成長と発達	(テキストP24-46) 講義/講義・専門用語確認
第7週	第2章：人間の発達段階と発達課題③ 第4・5節：心理的機能の発達・社会的機能の発展	(テキストP47-68) 講義・確認テスト②
第8週	第3章：老年期の特徴と発達課題① 第1・2節：老年期の定義・老化とは	(テキストP70-79) 講義・GW・発表
第9週	第3章：老年期の特徴と発達課題③ 第3・4節：老年期の発達課題・今日の課題	(テキストP80-107) 講義・確認テスト③
第10週	第4章：老化にともなうところとからだの変化と生活 第1節：老化にともなう身体的な変化と生活への影響	(テキストP110-142) 講義・専門用語確認
第11週	第4章：老化にともなうところとからだの変化と生活 第2節：老化にともなう心理的な変化と生活への影響	(テキストP143-163) 講義・確認テスト④
第12週	第4章：老年期の特徴と発達課題② 第3節：老化にともなう社会的な変化と生活への影響	(テキストP164-185) 講義・GW/発表
第13週	第3章：老年期の特徴と発達課題・総まとめ	講義・復習・課題提示
第14週	第4章：老化にともなう身体的・心理的・社会的変化と生活・総まとめ	講義・復習・確認テスト⑤
第15週	総まとめ試験・期末テスト試験・解説	

(注釈)授業計画については、「」学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。

科目名：社会の理解 I

対象クラス(専攻/コース)：1 学年 介護福祉学科 (人間と社会)

単位数：1

担当教員名：上條 雅巳

授業形態：講義

教材：最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解 (第 2 版) 中央法規出版株式会社

※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：介護付き有料老人ホーム・介護老人保健施設にて介護職・支援相談員として
13 年間経験

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

高齢者の介護現場において、直接的・間接的支援など多様な場面での援助経験を活かし、
下記の学習目的が達成できるように授業を実施していく。

学習目的 社会の理解 I では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、
組織、地域社会の概念を理解する。また、それに加え地域社会における生活支援に
ついて学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度について理解
する。

授業内容 ①個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的
に捉える学習とする。
②対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの
基礎的な知識を習得する学習とする。
③日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。
④本授業では、社会の理解 II、介護の基本 III へ引き継ぐ内容として高齢者保健福祉
に関する導入内容を行っていく。

到達目標：

- (1) 個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と
社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解 する。
- (2) 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のため
制度・施策を理解できるようにする。
- (3) 社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題を理解できるように
する。

評価方法／基準：

授業態度 (出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など)、確認テスト・総まとめ試験などの
結果を総合的に評価する。(総まとめ試験 70% 確認テスト 10% 授業態度 20%)

※総まとめ試験は 60 点以上を合格とする。(国家試験合格の確実性を高める為には、80%
以上の正答率が必要であり常に 80 点以上を目標に学習に取り組むこと)

その他、注意事項：

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1、事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておくこと。

2、事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深めておくこと。
課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出すること。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：生活、社会、家族、地域、地域包括ケア、社会保障、

<授業計画>

第1回	生活の基本機能（テキストP2～7）	講義
第2回	ライフスタイルの変化、家族の機能と役割（テキストP9～20）	講義
第3回	社会・組織の機能と役割、地域・地域社会、地域社会における生活支援 （テキストP21～31）	講義
第4回	地域福祉の発展（テキストP34～42）	講義・確認テスト
第5回	地域共生社会（テキストP43～48）	講義
第6回	地域包括ケア（テキストP50～53）	講義・確認テスト
第7回	社会保障の基本的な考え方（テキストP56～68）	講義
第8回	日本の社会保障制度の発達（テキストP69～80）	講義
第9回	日本の社会保障制度の仕組み1（テキストP81～92）	講義・確認テスト
第10回	日本の社会保障制度の仕組み2（テキスト92～100）	講義
第11回	現代社会と社会保障制度（テキストP101～110）	講義
第12回	高齢者保健福祉の動向1（テキストP114～118）	講義・確認テスト
第13回	高齢者保健福祉の動向2（テキストP119～126）	講義
第14回	高齢者保健福祉に関連する法体系（テキストP128～135）	講義・確認テスト
第15回	総まとめテスト（第1回～14回までの内容）	試験・解説

（注釈）

授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。